

水稻のイネツトムシ（イチモンジセセリ）に対する微生物農薬 B T 水和剤（商品名：チューンアップ顆粒水和剤）の防除効果

宮城県古川農業試験場

1 取り上げた理由

イネツトムシ（イチモンジセセリ）は、幼虫期に水稻の葉を食害する害虫である。直播栽培のように通常の移植栽培より生育が遅い水田で発生しやすく、ときに多発して大きな被害をもたらす。微生物農薬の B T 水和剤（商品名：チューンアップ顆粒水和剤）はイネツトムシに対して高い防除効果を示し、防除薬剤として有効であることから普及情報とする。

2 普及情報

1) B T 水和剤はイネツトムシに対して、対照薬剤のテブフェノジド水和剤と同等の高い防除効果を示す（図 1）。

- a 薬剤名 B T 水和剤（商品名：チューンアップ顆粒水和剤）
- b 有効成分 バチルス・チューリンゲンシス菌の生芽胞及び産生結晶毒素（B T）10.0%
- c 性状 暗褐色水和性細粒及び微粒
- d 毒性 普通物

2) 有効成分 B T は、I R A C^{*}の殺虫剤作用機構分類コード 11A（B T（生菌））のグループに分類される。薬剤抵抗性管理上の観点から、B T を有効成分とする農薬との連用は避ける。

（^{*}I R A C : Insecticide Resistance Action Committee, 世界農薬工業連盟の傘下に設立された殺虫剤抵抗性管理委員会）

3 利活用の留意点

- 1) 本剤は、昆虫病原性細菌バチルス・チューリンゲンシス (*Bacillus thuringiensis*: B T) のクルスターキ (*kurstaki*) F810 菌株を活性成分とする微生物農薬である。有機農産物の生産に使用可能であり、特別栽培農産物生産においては化学合成農薬の使用回数にカウントされない。
- 2) イネツトムシの防除時期は、普及に移す技術第 80 号参考資料「イチモンジセセリ成虫のモニタリングに基づく防除適期の把握」、第 88 号参考資料「水稻のイネツトムシ（イチモンジセセリ）の発生時期と防除」を参考にして決定する。
- 3) 水稻における本剤の使用方法は表 1 に記載した。農薬登録は変更される場合があるので、最新の登録内容を必ず確認する。
- 4) 使用前に容器のラベルをよく読み、記載された注意事項を守って使用する。

（問い合わせ先：宮城県古川農業試験場作物保護部 電話 0 2 2 9 - 2 6 - 5 1 0 8）

4 背景となった主要な試験研究

1) 研究課題名及び研究期間

新農薬による病害虫防除に関する試験（平成 25 年度）

2) 参考データ

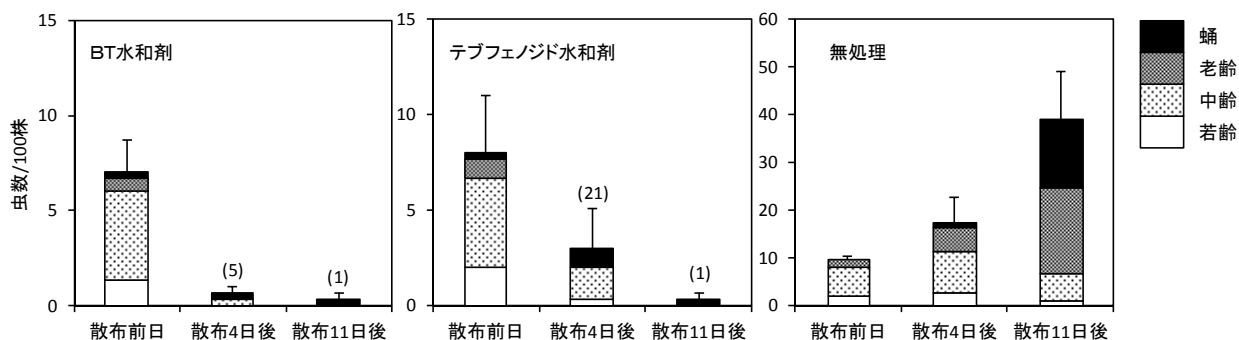


図1 イネツトムシに対するBT水和剤（チューンアップ顆粒水和剤）の防除効果

注1) 平成 25 年に湛水直播栽培（品種「げんきまる」）で実施した試験である。播種様式は点播である。

注2) 虫数は3反復の平均値，エラーバーは標準誤差を示す。幼虫の齢期は1～2齢を若齢，3～4齢を中齢，5齢を老齢幼虫として数えた。

注3) 図中の括弧内の数値は補正密度指数を示す。

補正密度指数=（処理区散布後虫数×無処理区散布前虫数）/（処理区散布前虫数×無処理区散布後虫数）×100

注4) BT水和剤は2,000倍，テブフェノジド水和剤（ロムダンブル）は1,000倍に希釈し，100L/10a相当量を8月2日に散布した。展着剤は使用していない。

表1 チューンアップ顆粒水和剤の水稻における適用害虫と使用方法(平成 27 年 2 月現在)

適用害虫	希釈倍数	使用方法	使用時期	本剤の使用回数	散布液量	BTを含む農薬の総使用回数
イネツトムシ	2,000～	散布	発生初期，ただし， 収穫前日まで	—	60～ 150L/10a	—
コブノメイガ	4,000倍					
フタオビコヤガ	2,000倍					

3) 発表論文等

a 関連する普及に移す技術

a) イチモンジセセリ成虫のモニタリングに基づく防除適期の把握（第 80 号参考資料）

b) 水稻のイネツトムシ（イチモンジセセリ）の発生時期と防除（第 88 号参考資料）

4) 共同研究機関

なし